

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300396		
法人名	医療法人社団大塚会		
事業所名	グループホームからこ(たちばな)		
所在地	〒854 - 0208 長崎県諫早市唐比西1125 - 2		
自己評価作成日	平成21年11月25日	評価結果市町村受理日	平成22年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855 - 0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成21年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院併設の為、緊急時等安心して暮らせる。お祭りなども地域住民、ボランティア等色々な方々の参加あり、触れ合い・気分転換が出来る。法人内外の研修に積極的に参加し、職員の意識・技術の向上に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年で開設6年目をむかえる当ホームは同敷地内に関連施設が立ち並び、当ホーム自体も母体の関連病院である唐比病院別館2階病棟と連絡通路でつながっており、緊急時の対応も含め、日頃から医療面に対して利用者・家族そして職員の安心にも繋がっている。周囲に緊家などが無いため、立地条件として日頃から住民同士で行き交うことは困難ではあるが、町内会に加入されたり、ホーム便りを地区のすべての世帯に配布するなど積極的に地域との交流のきっかけ作りを奮闘され、現在では様々な方が法人の祭りに参加されたり、ボランティアの訪問などつきあいの幅が広がってきている。今後も、利用者一人ひとりの意向を十分把握し、グループホーム特有の利用者本位の個別支援に力を入れていく予定であり、益々の発展が望めるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、スタッフが共有し、理念に添うよう頑張っている。	「やさしいほほえみ やさしい手 やさしいまなざし」というホームの理念は、職員全員での話し合いのもと作られ、認知症の方への接し方で忘れてはいけない笑顔や支え合う自然な見守りなどサービスのあり方が集約され、日々の実践に繋がっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会の加入をしており清掃活動への参加をしている。・プルタブ・ベルマーク集めをホーム全体で行い少中学校へ入居者と一緒に届けている(年2回)・蓮祭りや看護学校の文化祭、高校の文化祭への訪問。他、別紙。	今年度は地域との交流に力を入れ、さまざまな活動に取組まれた。町内会に加入し、地区の全世帯にホーム便りを配布されたり、年に2回の法人の祭りへは市内の学生も参加し、出し物を披露されるなど今後も情報発信を続ける考えで、積極的な様子が窺える。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、「認知症」に関して専門的見地(ホーム職員や医師)よりする相談や話し合いができ地域の方への助言となった。・AED設置施設として市役所へ任意にて届けを行った。又、本年度中にもAED取扱講習会を地域の方々で行いたい。他、別紙。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は年6回を開催予定(開催通知文の中に開催日時を記載している)会議的なものにならない様に開催場所を会議室からホーム食堂へ変更し気軽に話が出来た環境にした。地域住民の方々より認知症や独居で起こった事例を伺いアドバイスを行った。他、別紙。	2ヶ月に1回、開催されている推進会議では法人内の職員に加え、自治会長、民生委員、老人会、家族代表、市からは森山支所の職員が参加されている。報告のみに留まらず、介護に関する質問も聞かれ、双方向的な会議となっている。今後は、さらに包括職員の参加を考慮し、更なる充実を図りたいとしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回市職員の参加を依頼し(毎回参加済み)、市役所との連携を図っている。・介護保険所の更新手続きなどを市役所に出向き行っている。・AED設置施設として市役所へ任意にて届出を行った。他、別紙。	母体の企画業務課が中心となり、市とは積極的に連携がはかられている。先日は、諫早市さわやか介護相談員の研修の受入れが行われた。その他にも市の連絡協議会の役員も担われ、密な情報交換が行われている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外施錠していないし、身体拘束も行っていない。	日中、玄関の施錠は行われていない。帰宅願望があり徘徊傾向の利用者に対しては、無理強いせず、職員と一緒に外に出て歩いたことで気持ちが落ち着かれたという事例もあった。来月には外部研修も予定されているほか、院内身体拘束委員会にホームの職員も参加されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会がある時は、なるだけ参加するようしている。入浴時に全身を観察する様している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランナー更新研修を受け、申し送り時に全スタッフに周知している。ケアプラン同意の際に認知症高齢者の為、家族に同意をえている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に十分説明をし、途中でも疑問点等尋ねられたら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族会、イベントへ利用者及び家族の参加を依頼しその都度意見を交換している。(例えば家族会の開催時期や内容の要望など 平日夕方開催、出張料理を家族と食べたいなど)。意見箱を設置しているが書面での意見がない為来訪時や経過報告時、ケアプラン作成時に必ず尋ねている。他、別紙。	利用者との日常会話を大切にされ、気になる言動は記録に書き留め、プランにも反映されている。家族の意見に関しては、今年8月に食事会も兼ねて家族会が実施された。食事は地域の食堂の方が協力され、家族同士の会話もできたいへん好評な交流会にもなった。日頃も面会時に居室にて話を聞くなど、話しやすい雰囲気づくりも大切にしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングにて、聞く機会を設けている。	毎月のミーティングにて職員の意見を聞くほか、職員アンケートの用紙を準備している。また、管理者が職員全員の意見を聴取するため、改めて用紙に記入してもらうこともある。意見を聞くだけでなく職員のやる気にも繋げるため、検討や実現に向けても努力されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面では、各種資格手当や昇給を支給。労働面においては、有給休暇をとりやすくしたりノー残業デーを推奨するなどの取組を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に入っており、研修会、納涼際等に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、安心を確保する様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、不安なこと、要望に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人、家族の話に耳を傾けカンファレンスを開き検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を共に協力している。洗濯たたみ、ゴミウそぎ等。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、TELにて情報交換し、共に支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族から情報を得て、面会を促している。	入居前に初回のアセスメントを行い、入居後もその都度追記し、今までの生活歴の把握に努めている。ホームにカラオケ仲間が大勢面会に来られたこともあり、入居前と変わらない関係継続の支援が行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、利用者同士の間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院へ入院されたりした時など、面会に行き家族の方と連絡を取ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を直接訪ねる。日頃の言葉、行動などから意向をくみ取る。	当ホームは、センター方式を導入されている。日々の会話の中から、思い(ニーズ)を汲み取り、こまめに記録に残し、職員間での共有を図っている。利用者からだけでなく、家族からも面会時に話を聞き、意向の把握に努めている。	利用者の「今」を大切に受け止め、今日～をしたい、今日～を食べたいなどの「今」の希望に可能な限り実現していきたいと考えられている。今後、さらなる利用者本位の支援に期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に尋ねたりして、努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、個別記録、状態観察にて、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティング、面会時等に意見を聴き、介護計画を作成している。	ミーティングの中で、プランの変更、見直しを3ヶ月に1度行うが、状態変化時は随時、行われている。サービス内容を実践に繋げるため、毎日ケアチェック表で確認が行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、スタッフ全員が目を通し、情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じて、皆で話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーで買い物。地元大学生のボランティアの受け入れ(年2回程度)し過ごしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話した上で、納得が得られた受診をしている。	協力病院とはホームが廊下続きで隣接しているため、受診の負担もなく、緊急時は医師や看護師がすぐに駆けつけてくれる状態である。週に数回は、院長が健康相談で訪問され、24時間365日安心して医療を受けられる体制である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と併設でもあり、連携を密にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と併設でもあり、連携を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前終末期を迎えられた方がいた時も、早い段階から家族と話し合いながら、スタッフ全員で出来るだけの事は取り組んでいる。	現在までにホームでの看取りはないが、入居時に看取りに関する説明を行い、本人・家族からの希望があれば看取りを行う方針である。母体が病院であるため、医療処置も含めたさまざまな勉強会が開催され、職員が参加している。ホームでの点滴治療やエアマットの使用も可能である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が一緒ではないが年に一回、応急手当、初期対応の訓練を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からも来てもらい避難訓練、消火方法を教わっている。	年に2回、消防署立会いの下、法人内での合同訓練が行われている。今年は夜間を想定し、ホーム独自での訓練も行われた。今後はスプリンクラー設置と地域の方も参加できるAED(ホーム内に設置)の講習会を開催予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの言葉かけが時に、誇りを傷つけてる時あり。	利用者への自然な声かけ、トイレ誘導が行われている。トイレ介助の際は、必ずドアを閉める、入浴時は個別に対応するなどプライバシー確保が徹底されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ会話する時間を設け、傾聴する様努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせる様心がけている。 起床時間、昼寝等。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は、選んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握しているし、準備・かた付けは出来る方はしていただいている。	同じテーブルを囲み、利用者と職員が同じものを食べられている。年に数回は嗜好調査を実施するほか、食事の際に見守りを行いながら残食状況で好き嫌いを把握している。食事の準備は利用者の残存能力を生かし、できる範囲で参加されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は記録し把握している。自分で摂取出来ない方は介助している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を活かして、行っている。	排泄チェック表を記入し、一人ひとりのパターンの把握に努め、なるべくオムツに頼らないトイレ誘導が行われている。失禁した利用者への対応は、居室に汚れた下着を置く場所を作り、自立に向けた支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェック表を活かして、行っているし、時にはDrに相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めているが、本人の希望も大切にしている。	一年を通じて、週に2回10:30～17:00までを入浴可能としている。介助が必要な方には職員数名で対応し、安全面への配慮が行われている。拒否者に対しては、主治医へ協力をお願いするなど、チーム内で連携し、無理強いしない程度で清潔の保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票があり、症状の変化はバイタルチェック等にて把握している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はなるべくしていただく。レクリエーション等にて、気分転換を計っていただくよう心がけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や、マイクロバスにてドライブ。	敷地外はすぐに国道であり、日頃から地域との行き来は少ないながらも、病院受診後に職員とともに敷地内を歩いたり、暖かい日は中庭で日光浴を行うこともある。家族の協力で、外食や外出をするなど家族支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を預かる体制はあるが小遣い程度の金銭のため、個人で管理をいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あればかけているし、ない方は声掛けしたりして対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音、光の調節、温度の調節等不快にならない様心がけているし、季節にあった模様替え(ひな祭りなど)を行っている。	ホームの中央には中庭があり、そこから自然な明るい採光があり心地よく感じられる。各ユニットには和室が設けられ、そこでゆったりされたり、ソファで食後ゆっくり過ごされる事もある。また、居室のドアの前にはクリスマスのリースが飾られ、季節感も大事にされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルなど、その時に応じて動かしたりして工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の方で使い慣れた物や好みの物等、自由に持っていたいでいる。	各居室には洗面所が設置されているほか、必要であればカーペット等を敷くことも可能である。使い慣れたタンス、仏壇、位牌などそれぞれが思い思いの物を持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前面に手すりの設置あり、トイレにも目印		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300396		
法人名	医療法人社団大塚会		
事業所名	グループホームからこ(ありあけ)		
所在地	〒854 - 0208 長崎県諫早市唐比西1125 - 2		
自己評価作成日	平成21年11月25日	評価結果市町村受理日	平成22年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855 - 0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、スタッフが共有し、理念に添うよう頑張っている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会の加入をしており清掃活動への参加をしている。・プルタブ・ベルマーク集めをホーム全体で行い少中学校へ入居者と一緒に届けている(年2回)・蓮祭りや看護学校の文化祭、高校の文化祭への訪問。他、別紙。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、「認知症」に関して専門の見地(ホーム職員や医師)よりする相談や話し合いができ地域の方への助言となった。・AED設置施設として市役所へ任意にて届けを行った。又、本年度中にもAED取扱講習会を地域の方々で行いたい。他、別紙。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は年6回を開催予定(開催通知文の中に開催日時を記載している)会議的なものにならない様に開催場所を会議室からホーム食堂へ変更し気軽に話が出来た環境にした。地域住民の方々より認知症や独居で起こった事例を伺いアドバイスを行った。他、別紙。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回市職員の参加を依頼し(毎回参加済み)、市役所との連携を図っている。・介護保険所の更新手続きなどを市役所に出向き行っている。・AED設置施設として市役所へ任意にて届出を行った。他、別紙。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外施錠していないし、身体拘束も行っていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会がある時は、なるだけ参加するようしている。入浴時に全身を観察する様している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランナー更新研修を受け、申し送り時に全スタッフに周知している。ケアプラン同意の際に認知症高齢者の為、家族に同意をえている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に十分説明をし、途中でも疑問点等尋ねられたら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族会、イベントへ利用者及び家族の参加を依頼しその都度意見を交換している。(例えば家族会の開催時期や内容の要望など 平日夕方開催、出張料理を家族と食べたいなど)。意見箱を設置しているが書面での意見がない為来訪時や経過報告時、ケアプラン作成時に必ず尋ねている。他、別紙。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングにて、聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面では、各種資格手当や昇給を支給。労働面においては、有給休暇をとりやすくしたりノー残業デーを推奨するなどの取組を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に入っており、研修会、納涼祭等に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、安心を確保する様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、不安なこと、要望に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人、家族の話に耳を傾けカンファレンスを開き検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を共に協力している。洗濯たたみ、ゴボウそぎ等。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、TELにて情報交換し、共に支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族から情報を得て、面会を促している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、利用者同士の間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院へ入院されたりした時など、面会に行き家族の方と連絡を取ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を直接訪ねる。日頃の言葉、行動などから意向をくみ取る。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に尋ねたりして、努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、個別記録、状態観察にて、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティング、面会時等に意見を聴き、介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、スタッフ全員が目を通し、情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じて、皆で話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーで買い物。地元大学生のボランティアの受け入れ(年2回程度)し過ごしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話した上で、納得が得られた受診をしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と併設でもあり、連携を密にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と併設でもあり、連携を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前終末期を迎えられた方がいた時も、早い段階から家族と話し合いながら、スタッフ全員で出来るだけの事は取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が一緒ではないが年に一回、応急手当、初期対応の訓練を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からも来てもらい避難訓練、消化方法を教わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの言葉かけが時に、誇りを傷つけてる時あり。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ会話する時間を設け、傾聴する様努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせる様心がけている。 起床時間、昼寝等。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は、選んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握しているし、準備・かた付けは出来る方はしていただいている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は記録し把握している。自分で摂取出来ない方は介助している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を活かして、行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェック表を活かして、行っているし、時にはDrに相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めているが、本人の希望も大切にしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票があり、症状の変化はバイタルチェック等にて把握している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はなるべくしていただく。レクリエーション等にて、気分転換を計っていただくよう心がけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や、マイクロバスにてドライブ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を預かる体制はあるが小遣い程度の金銭のため、個人で管理をいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あればかけているし、ない方は声掛けしたりして対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音、光の調節、温度の調節等不快にならない様心がけているし、季節にあった模様替え(ひな祭りなど)を行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルなど、その時に応じて動かしたりして工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の方で使い慣れた物や好みの物等、自由に持ってもらっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前面に手すりの設置あり、トイレにも目印		